

第120回運営委員会概要 10月17日(水) 18:30~21:00

- ◆会場：柏崎原子力広報センター 2F研修室
- ◆出席委員：新野・石坂・川口・佐藤(正)・三宮・高橋(武)・武本(和)・徳永・前田運
営委員・・・9名
(欠席：竹内委員)
- ◆オブザーバー：規制庁／飯野所長・黒澤副所長・吉村検査官 エネ庁／磯部所長
東電／長野副所長・西田技術担当・佐野課長・山本主任
- ◆事務局：広報センター／須田業務執行理事 石黒主事

視点57号内容について(第111回定例会分)

- ・事務局案をさらに委員で確認、細かな改善等を行い校了。

地域の会会則一部改正について

- 〈事務局〉原子力規制委員会ができたことにより会則を一部改正させていただく案を提示した。尚、附則として9月19日からの施行を付け加えた。
- 〈議長〉規制庁から少し説明していただき、今日の運営委員会で皆さんの同意をいただきたい。
- 〈規制庁〉環境省と規制委員会というのは本省と外局委員会という関係。原子力についての役割分担としては、保安院の部分は今までどおり。除染と瓦礫処理についても少し役割を担うことになる。
- 〈事務局〉経済産業省から安全規制部門が分離され、規制委員会が環境省の外局組織として新設されたことにより、会則の中に原子力規制委員会を加えた。
- (委員了解)

来年度の事業計画について

- 〈事務局〉地域の会が来年10周年を迎えることとなり、委員の皆さんから様々な事業案を寄せていただいた。記念誌として、10年間のまとめを作ってはどうかという意見も多かった。10年分の事業をまとめるための時間と労力もかなり必要になり、予算もかなり必要になると考えられる。また、講師を招いての講演会という案もあった。
- 〈委員〉地域の会の特性を考えたときに、記念誌は必要なのか委員の皆さんに良く考えてもらいたい。もちろん「まとめる」という部分は必要だと思う。記念誌といった大業なものではなく「活動の記録」という意味合いのほうがよいのではないかと思う。
- 〈委員〉まとめるのは大変な作業。立派なものをつくっても実際はあまり見ないかもしれない。お金はかけないほうが地域の会らしいのではないか。
- 〈委員〉自前でシンポジウムを行うくらいのほうがよい。
- (委員賛成)
- 〈議長〉各委員の案や、運営委員の意見を踏まえると、記念誌については、今までの「経緯」をまとめているが、これを多少アレンジする程度のものでとすること、また、講演会については、これまでも講師を招いて勉強会などを行ってきたが、それと

同じくらいの低予算で実施できるシンポジウムとすること、などを今後計画していくことでどうだろうか。

(委員了解)

次回以降定例会内容について（11月、12月、1月）

〈議長〉委員より、「ピークカット時、電力会社以外からの発電、自家発電の量を教えてほしい」、「総需要電力量、それにまつわる資料を出してほしい」という要望が出ている。一般委員もこういうことが知りたいのではないか。

テーマの中で、電力需給のことやエネ庁の考え方、東京電力の電力需給実績などを聞き、住民の視点できちんと判断するための情報を知ることは必要ではないか。

〈委員〉今日、東京電力の防潮堤などを視察した。原発を早く動かせという世論もある中で、実際の発電所では、使用済み燃料プールの余裕がなくなってきているのではないか。中間貯蔵施設はいつ完成するか、六ヶ所はどうなっているのか。現在の状況を知ることは、これからの議論の前提となる内容。そのあたりのことも今後のテーマに加えてほしい。

〈委員〉柏崎刈羽発電所の使用済み燃料が、このままずっとこの土地にあることに不安を覚えている。生産地だけが引き受けることはない。今まで恩恵を受けてきた人たちに真剣に考えてもらいたいし、責任ある分担をしてもらいたいという思いもある。

〈委員〉他にもテーマにしてもらいたい内容がある。福島事故で避難区域になっている場所の自治体が、5年間は戻れないことを決めた。除染しているが効果はほとんどないという情報もある。同じ原発立地地域として自治体の実際の様子や決定の状況は気になっている。その情報をどこから入手して説明してもらえるかはわからないが、今後の定例会の課題に加えてほしい。除染の実態についても知りたい。

〈委員〉規制庁は発足したばかりで今後の見通しはまだはっきりしない。事実確認はできないし結論まではいかないが、しかし地元の意見として届けることはよいと思うし必要だと思う。

〈委員〉原子力委員会が、再処理の問題や地層処分のことについて学術会議に出したものが返ってきているというのを断片的に新聞などで知った。内容が、国の中でどのような位置付けになっているのか知ることができない。

現実問題として現在はどうのような状況にあるのか、数字の説明も求めたいし、今後考えていくなかで、それらは重要な情報。

良い、悪いは別にしてそこがわからないと、「仕事がないから早く原発を動かせ」という市民生活レベルでの単純な意見に終始してしまう。

現在の状況を知り、共通認識にしなければ、議論がかみ合わなくなる可能性があるのではないか。

〈エネ庁〉現在、原子力委員会の組織もどうなるのかははっきりしない状況。年末までにかなりのことが決まる予定になっているので、今は方向性をもって説明できる内容はほとんどない。

〈議長〉 民意を誘導するような議論になってはいけない。11月の定例会は電力需給のことについて、また、12月に使用済み燃料の現在の状況を説明してもらい、委員同士の共通認識にすることとしたいがどうか。
(委員賛成)

その他 (情報提供について)

〈議長〉 滋賀県防災危機管理局から連絡があり、原子力防災シンポジウムが開催される。「原発リスクの共有に向けて、地域住民の思いをどう届けるか」がテーマで、パネリストとして参加依頼があり、受けることとしたい。

〈委員〉 ぜひ、参加して話してきていただきたい。
(委員賛成)

【決定事項】

〈11月定例会タイムスケジュール (案)〉

18:30～19:15	前回からの動き (東京電力、規制庁、エネ庁、行政)
19:15～19:35	今夏の電力需給及び過去の推移について (エネ庁)
19:35～20:05	今夏の電力需給実績および過去の推移 (東京電力)
20:05～20:10	休憩
20:10～21:00	質疑応答、その他

次回日程について

第113回定例会	11月 7日 (水) 18:30～
第121回運営委員会	11月21日 (水) 18:30～